

問 新農業施策
宍粟加美線上野田能倉ハイパス

答 集落営農の組織化
担い手育成確保を推進

田淵 基次 議員

問 平成19年度より実施される「経営所得安定対策事業」の推進について。

市長 「品目横断的経営安定対策」はこれまでの価格政策から所得政策へ転換される。「米の生産調整支援策の見直し」は「米政策改革推進対策」とも云われ、品目横断的経営安定対策が導入され見直し再編される。「農地・水・環境保全向上対策」は地域で農地水環境の良好な保全を図るため、地域ぐるみの共同活動や農業活動を支援していく。以上3つが大きな柱です。市ではすでに16地区において説明会を開催し理解協

力を得る取り組みを行っている。

中山間地域等直接支払制度の実績は17年度47集落の協定があり、面積は390町歩、6,700万円の交付金額となっている。

問 県道六粟加美線
上野田〜能倉〜福田に至るバイパス構想は進展しているか。

土木部長 本年度予算はついていない。しかし新たなスタートとして県の公共事業審査会資料の作成年度となっている。今後市としても重要路線と認識早期改良を要望していく。

問 少子化対策は細やかに

答 既存の制度も含め検討

岡田 初雄 議員

問 少子化対策は、厳しい財政を理由に経済的支援に消極的に見えます。経済的支援の許される範囲等、企業に、市民にお願い出来るもの、きめ細やかな施策が望まれますが。

市長 学童保育の拡充、乳幼児医療費、保育所、幼稚園の利用料の削減、若者出合いサポートセンターの創設、企業による雇用の安定化等、既存の制度も含め、全市へ向けた対策を検討しています。

問 学校づくりに
総合学習は、学校独自の取り組みが出来、地域に合った特色ある学校づくりの手段と考えますが。

教育長 各学校において、独自の取り組みがされています。長いスパンで考えるべきであり、支援をしていきます。

問 職員の給料格差は、
正は 給料の格差は、職員の職務に対する影響も懸念され、合併協定項目の早期調整は、

助役 給料ベースが旧4町とも違い、高い所に合やす事は難しく、年度末に向けて調整をめざします。

問 これから目指すまちづくりは

答 資源を生かし
活力あるまちを

北川 清司 議員

問 交通や文化が発達した今日10年後の宍粟市の将来を見据えた施策が求められる。本市の地理的条件から、道路整備が大きな課題である。人・モノ・情報が豊かに往来する交流と共生の時代に対応しうるまちを、中でも、北部3町を横断する、国道429号改良促進は、地域の円滑な交流と、均衡ある振興を図るため強力な姿勢で取り組むべきである。

市長 豊かな資源を生かした交流と参画のまちを、国、県の幹線道路の整備に関しては引き続き要望活動を続ける。

の推進を
宍粟〜新宮線（下比地―平見間）トンネル構想が打ち出された。この道路は国道250号―山崎インターを直結する西播磨の経済・生活交流を果たす主要路線である。県当局も、このたび国見の森開園で前向きと聞く、実現への布石は敷かれた。市の南の玄関口、市民の安全と魅力ある街づくりを目指し早期実現に最善の努力を。

土木部長 国道429号の改良促進、志引、高野峠のトンネル化に向けて、特に宍粟新宮線については、トンネル整備の早期着手が出来るよう強く要望していく。

総合学習を特色ある

県道宍粟〜新宮トンネル構想